



- 2. 21世紀の日本モデル/ゼネコン
- 3. 建機/造船重機
- 4. 自動車/自動車部品
- 5. 電機/電子部品
- 6. IT/通信
- 7. 化学/鉄鋼
- 8. エネルギー/環境

# つくろう!日本

## 復興、そして競争の舞台「世界」へ

復興を次なる成長への起爆剤に。  
2012年の日本は「21世紀型の日本モデル」を模索する年になる。復興需要によって内需を拡大する一方で、海外では新興国を中心としたマーケットを開拓し外需を積極的に取り込む。大震災、記録的な円高に見舞われた昨年のわが国。今こそ国難を乗り越えて立ち上がり、新時代における成長シナリオを描き出さねばならない。  
大震災と超円高で大きな後退を余儀なくされた11年の日本企業。いよいよ今年は成長路線への回帰が期待されている。政治の混迷、危機的な財政、効果

がなかなか見いだせない金融政策など、マクロ経済運営のかじ取りが難しい中、経済成長のエンジンはやはり民間だ。民主導の成長が日本経済の復活に直結する。  
一時期、金融やサービスでの成長を見いだそうとしたこともあるわが国だが、日本の成長を担うのはやはりモノづくりだ。その切り札が技術革新。間断なきイノベーションで日本の存在感を高め、国際的サプライチェーンにおける重要な構成要素であり続けねばならない。  
ポイントになるのは「安心・安全・本物」という

「高度信頼性」。これまで日本企業は「品質・価格・デザイン」で国際競争を勝ち抜いてきたが、今後は高度信頼性を武器に中国や韓国勢との差別化戦略を強めていく必要がある。  
12年はこれからの日本の行方を占う1年になる。11年度第3次補正予算の効果が春先から始め、復興需要が確実に期待される。一方、「外需の内需化」では環太平洋連携協定(TPP)を筆頭にした「経済連携元年」になる。内外需バランスが取れた新たな成長モデルの実現へ。日本はそのスタート台に立っている。



【右上】世界に誇る鉄道システム「新幹線」は日本のインフラ輸出の有力候補として期待される  
【左上】東日本大震災の被災地で操業再開した工場(日本製紙石巻工場=2011年12月)  
【下】日本の都市は「スマートグリッド」で進化していくことになる

### 問題

愛する国に住むこと。

美しさが好きだ。やさしさが好きだ。これからも、この国で暮らしたいと思う。

旭化成のヘーベルハウス。独自のALCコンクリートと鉄骨構造で、住まいの安全を追求します。

あなたが暮らす街に、ヘーベルハウスはあるだろうか。  
影の深い厚みを持った外壁が、ヘーベル版=ALCコンクリート。  
火にも湿気にも強いこの素材を、床・天井にも使用し、耐用年数60年以上を実現している。  
それを内から支えているのが、独自の鉄骨構造。中でも制震フレームは、組み合わせられた鉄骨と制震デバイスで、効率よく地震の揺れを吸収するヘーベルハウスならではのもの。その性能は、耐震実験で繰り返し検証されている。  
世界には、地震の少ない地域もあるだろう。しかし私たちは、この国に生まれ、この国で暮らすことを愛している。  
住まいをつくる者には、そんな気持ちに応える責任があると思う。  
昨日まで世界になかったもの「ヘーベルハウス」。詳しくは [www.asahi-kasei.co.jp/hebel/](http://www.asahi-kasei.co.jp/hebel/)

昨日まで世界になかったものを。

AsahiKASEI